



かぜをひくと鼻^{はな}がつまるのはなぜなの

かぜって何^{なん}だろう

かぜをひくと、熱^{ねつ}が^で出^でて、鼻^{はな}やのど^{ぐあい}の具合^{わる}が悪^{わる}くなったりします。

かぜは一つの病^{びょうき}気^{ひと}ではなく、鼻^{はな}やのど、肺^{はい}など、呼吸^{こきゅうき}器官^{かん}のねんまくにおきる、熱^{ねつ}、痛^{いた}み、はれをと^{ひょうき}もなう病^さ気^{もと}の、すべてを指^さしています。かぜの元^{もと}になっているのは、ウイルスや細菌^{さいきん}という、目^めに見^みえない小^{ちい}さな小^{ちい}さな生^いき物^{もの}です。

ウイルスや細菌^{さいきん}は、かぜをひ^ひいている人^{ひと}の口^{くち}から出^でて、空^{くう}気^きを伝^{つた}わって、ほかの^{ひと}人^{からだ}の体^{ひと}に入^{はい}ったり、ウイルスや細菌^{さいきん}のつ^ついたもの^{ひと}にさ^てわった人^{はい}の、手^てから入^{はい}ることもあります。

かぜをひくと鼻^{はな}がつまるのは

鼻^{はな}の中^{なか}のおく^{ひょうめん}のほう^{けっかん}の、表^{しんけい}面^{あつ}がしめ^{あつ}ってぬ^{あつ}るぬ^{あつ}るした^{あつ}ねんまくには、血^{けっかん}管^{しんけい}や神^{あつ}経^{あつ}が集^{あつ}ま^{あつ}っており、たいへん、びん^{かん}感^{かん}になっ^{かん}ています。

かぜのウイルスが鼻^{はな}のねんまくにつくと、体^{からだ}が、病^{びょうき}気^{びょうき}をな^{びょうき}お^{びょうき}そうとするは^{びょうき}たら^{びょうき}きをは^{びょうき}じ^{びょうき}め、その部^ぶ分^{ぶん}がは^{あか}れて赤^{あか}くなり^{あか}ます。そのた^{あか}め、鼻^{はな}がつ^{あか}まるの^{あか}です。

鼻^{はな}の中^{なか}には、ウイルスを^{ころ}殺^{ころ}すた^{ころ}めの白^{はっけつきゅう}血^{あら}球^{なが}や、洗^{あら}い流^{なが}すた^{みず}めの水^{みず}がた^{みず}くさん^{みず}出^{みず}ます。

そして、ウイルスや白^{はっけつきゅう}血^{はな}球^{さいぼう}、こ^{はな}わ^{さいぼう}れた鼻^{はな}の細^{はな}胞^{みず}など^{みず}が、鼻^{はな}水^{みず}として^{みず}出^{みず}るの^{みず}です。

(監修・保志 宏)

